

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3577800414		
法人名	医療法人社団千葉クリニック		
事業所名	グループホーム豊田		
所在地	山口県下関市豊田町大字中村7の1		
自己評価作成日	平成29年10月30日	評価結果市町受理日	平成30年3月12日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度ホームページで閲覧してください。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 やまぐち介護サービス評価調査ネットワーク		
所在地	山口県山口市吉敷下東3丁目1番1号 山口県総合保健会館内		
訪問調査日	平成29年11月17日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

静かな環境の中でも施設の近隣にはスーパー・道の駅・温泉等利便性に富んでいる。各学校の通学路も近く、小学生から高校の学生の行き交う姿を目にする。自治会の協力もあり、いろいろな行事への参加をさせて頂いている(町内の清掃、スポーツ大会、クイズ大会)。また、地域の子供達や高校生の定期的な訪問もあり、毎月第3土曜日オレンジカフェの開催。消防署の協力を得て、夜間・日中の避難訓練、搬送訓練、消化訓練を実施している。医療併設で、緊急時や夜間の対応も充実。介護福祉士が中心にスタッフ全員が理念を基本とした総合的な支援を行っている。利用者一人ひとりの思いを大切に、外出・外食支援等個別への柔軟な対応を実施している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

利用者と職員と一緒に地域の清掃作業や敬老会に参加されたり、夏祭りやほたる祭り、花火大会、文化産業祭、保育園の運動会などの見学に出かけておられます。地域のよさこいや傾聴のボランティアの来訪がある他、ちびっこ(園児、小学生)ボランティアや中学生の職場体験、部活動で高校生が年末の窓ふきなどで来訪されています。地区の自治会長が、運営推進会議で地域の情報を伝えられたり、事業所に気軽に立ち寄られて利用者と話をされている他、近所の人が利用者と一緒に野菜や花を植えたり草取りをされているなど、事業所は地域の一員として幅広い年齢層の人々と日常的に交流されています。日々の関わりや会話の中から、利用者の思いや意向の把握に努めておられ、葬儀に利用者と一緒に出席されたり、あんパンを食べたい利用者と一緒にスーパーマーケットへ買いに行かれるなど、職員は利用者の思いの実現のために支援に取り組んでおられます。食事は三食とも事業所でつくっておられ、利用者は買い物や下ごしらえ、味見、盛り付けなどできることを職員と一緒にしておられ、おやつづくりや季節の行事食、誕生日の希望のメニューやケーキ、お弁当や外食など、食事が楽しみなものになるように支援しておられます。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～56で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印	
57	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:24. 25. 26)	○	1. ほぼ全ての利用者の	64	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:10. 11. 20)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
58	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:19. 39)	○	1. 毎日ある	65	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2. 21)	○	1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度
			3. たまにある				3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
59	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:39)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:5)	○	1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くいない
60	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:38. 39)	○	1. ほぼ全ての利用者が	67	職員は、活き活きと働けている (参考項目:12. 13)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:50)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
62	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:31. 32)	○	1. ほぼ全ての利用者が	69	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
63	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:29)	○	1. ほぼ全ての利用者が				
			2. 利用者の2/3くらいが				
			3. 利用者の1/3くらいが				
			4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所としての理念があり、玄関、共用空間、事務室に掲示し、パンフレットやホーム便りにも掲載している。職員採用時より理念を伝え、職員会議カンファレンス時、申し送り時に職員全員で理念に触れ確認している。	地域密着型サービスの意義にそった事業所独自の理念をつくり、事業所内に掲示している。パンフレットや年3回発行する事業所だよりにも掲載している。職員会議やユニット会議、カンファレンス時に全職員で話し合っ確認し、ケアに行き詰った時には、理念に立ち戻って振り返り、共有して理念の実践につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に加入し、職員・利用者と一緒に清掃作業やグランドゴルフ大会に参加している。運営推進員との懇親会、敬老会には家族、職員と一緒に参加し、保育園児、小中学生、高校生ボランティア、職場体験等受入れ交流している。また、散歩、買い物時には近所の方、お店の方と挨拶を交わしたり立ち話をする。季節の野菜や花の差し入れがあるなど、日常的に交流している。	自治会に加入し、利用者と職員は一緒に地域の清掃作業や敬老会に参加したり、夏祭り、ほたる祭り、花火大会、文化産業祭、保育園の運動会などの見学に出かけている。ボランティア(ちびっこ、よさこい、傾聴)の来訪がある。ちびっこ(保育園児、小学生)ボランティアは紙芝居や歌を歌ったり、事業所行事(ハロウィン、豆まきなど)に参加している。高校生が部活動の一環として、事業所の年末の窓ふきや年2回の茶道の御手前の披露、地域の人とオレンジカフェの手伝いをしている。中学生の職場体験や高校生のインターンシップを受け入れている。管理者は、キャラバンメイトとして、認知症サポーター養成講座に参画し地域に貢献している。自治会長や近所の人 が気軽に事業所に立ち寄って、利用者と会話をしている他、野菜や花の差し入れや利用者と一緒に野菜や花の苗を植えたり草取りをしている。散歩や買物で外出した時には近所の人と挨拶を交わしているなど、地域の一員として日常的に交流している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議、入所相談、認知症サポーター養成講座等、認知症の専門知識を活かし地域の方に情報提供している。また、第3土曜日オレンジカフェを開催し、地域貢献への働きかけを行っている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
4	(3)	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	職員に評価の意義について説明し、職員会議や各ユニット会議毎で話し合い、自己評価に取り組んでいる。実践状況等確認する中で、浮かび上がる問題点や疑問点への改善に結びついている。	管理者は、自己評価の意義を職員に説明し、全職員に自己評価をするための書類を配布し、職員が記入したものを管理者とリーダーが話し合ってまとめている。自己評価を日頃の業務の振り返りの機会と捉えている。排泄支援や食事形態について考えるきっかけになり具体的な改善につなげている。	
5	(4)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回開催し、行事予定・ヒヤリハット報告、事故報告、利用者状況、避難訓練や災害対策について報告、意見交換を行っている。また地域住民や家族からの意見、提案を元にサービス向上に努めている。	新たに同地区のグループホーム管理者と民生委員がメンバーに加わって、会議は年6回開催している。利用者の状況、行事予定、ヒヤリハットレポート、外部評価結果などを議題として、質疑や意見交換をしている。歴代自治会長の参加があり、地域の情報交換の場となっている。メンバーからオレンジカフェの運営について提案があり、月1回第3土曜日に開催することになるなど、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	
6	(5)	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市・町担当課とは、書類提出時や電話等で不明点、事業所の現状を含め相談、情報交換を行っている。また、2ヶ月に1回の地域ケア会議への参加時にも、情報交換や事例相談を行い連携を図っている。	市の担当者とは、電話やファックス、直接出向いて、相談して助言を得たり、情報交換をして協力関係を築いている。地域包括支援センター職員とは、運営推進会議時にオレンジカフェの運営や利用者の状況や事例について情報交換をしているなど、連携を図っている。	
7	(6)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束排除の為のマニュアルを作成し、随時マニュアルに基づいて研修を行い、正しい理解を含め、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。日中は玄関に施錠をしないで、外出傾向の強い利用者については、一緒に外出したり、日頃の介護場面から誘因を探り支援に取り組むなど、全職員で身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	マニュアルに基づいて年1回の研修で学び、職員は理解して、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。玄関は施錠せず、外出したい利用者には職員が寄り添い、一緒に出かけている。スピーチロックについては、気づいた時に管理者がその都度指導し、職員間でも注意し合っている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待について研修を行い、日頃より利用者の身体・精神的な状態を十分に把握した上で、異常や変化に注意し、申し送り時や職員会議を通じて、情報の共有化を図り防止につとめている。		
9		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	全職員が制度の理解に努め、研修等参加し、活用出来るよう、支援に繋げたいと考えている。		
10		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時、改定等の際は、利用者の家族が十分に納得されるまで説明を行い、理解納得を図っている。		
11	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等からの相談、苦情の受付体制や処理手続きを定め周知するとともに、意見や要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	相談、苦情の受付体制や処理手続きを定めて、契約時に利用者と家族に説明をしている。家族会、運営推進会議参加時、面接時等に家族の意見や要望を聞いている他、夜間遅い時間の電話やメールでの相談にも応じている。現在、家族会では、家族中心となり、日時内容の計画を行っている。	相談や苦情の受付体制について、契約時に利用者と家族に説明している。運営推進会議時や面会時、行事への参加時、年1回の家族会時、メール、電話などで、家族からの意見や要望を聞く機会を設けている。家族会が実施したアンケートより、健康管理の要望があり、それらを運営に反映させている。	
12	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	代表者や管理者は、月1回の職員会議やユニット会議、個人面談で直接意見を聞く機会を設け改善に努めている。利用者の状態、職員体制に応じ、環境整備を行い、さまざまな改善に向け反映させている。	月1回の職員会議やユニット会議、カンファレンス、随時の個人面談で、職員の意見や提案を聞く機会を設けている他、日常業務の中でも意見や提案を聞いている。勤務時間帯等の勤務体制の見直しなど、職員の意見や提案を運営に反映させている。	
13		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者を通し職員個々の勤務状況の把握に努め、各自が向上心を持ち続けるよう、職場環境・条件の整備にあたっているが、給与水準、労働時間の条件の整備には至っていない。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14	(9)	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修には、事前に情報を伝え、希望や段階に応じて勤務の一環として参加の機会を提供し、職員会議で復命報告をしている。山口県宅老所、グループホーム協会の研修会や事業所相互の訪問・見学などの機会を通し、サービスの質を向上するように取り組んでいる。新人職員は、管理者や先輩職員を指導者として、日常の業務の中で働きながら介護技術を学んでいる。	外部研修は、職員に情報をつたえ、希望や段階に応じて勤務の一環として参加の機会を提供している。年9回受講し、受講後は職員会議時に伝達し、職員間で共有している。復命書はいつでも閲覧できるようにしている。内部研修は、感染症予防、看取りケア、高齢者の痒み、食事でとろみのつけ方、食中毒、認知症の人の不安について、虐待防止、不適切な声かけ改善策、インフルエンザなどをテーマに月1回、開催している。新任研修は、認知症についての基礎知識を学んだ後に、管理者や先輩職員の指導を受け、日々の業務の中で働きながら学べるように支援している。	
15		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	山口県宅老所、グループホーム協会での学習会、外部で開催される研修に積極的に参加している。また、事業所訪問を通じて情報交換し、お互いのサービスの質の向上に役立てている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
16		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	しっかりと本人の話に耳を傾け、伝えたい事、思いを理解し、安心してその方らしい日常が送れる様努めている。また、家族からも家族目線での本人に関する思い情報収集に努めている。		
17		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	相談に来られた段階より、家族の思いやこれまでの経緯、今後の要望に耳を傾け関係づくりに努めている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	管理者、ケアマネが訪問調査を行い、本人家族との対話、状況を見て、今この時必要な必要な支援を見極め、臨機応変、柔軟な対応に努めている。		
19		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の状況に応じて、出来る事の支援を心掛け、一緒に食事をしたり、お茶を飲んだり、家事をしたりと、共に暮らしている者同士の関係を築く努力をしている。		
20		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	職員は家族と情報交換をしながら、本人が家族に望んでいる事、家族にしか出来ない事を日頃の関わりの中から察知し、互いに協力しながら支える関係作りに取り組んでいる。		
21	(10)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族や近所の人、趣味仲間の訪問や年賀状暑中見舞い、手紙、ハガキ、電話の支援や、馴染の美容室に出掛けるなどの支援の他、外泊、外出、墓参りにでかけるなど、馴染の人や場所との関係が途切れないように支援に努めている。	家族の面会や親戚の人、近所の知人、職場の元同僚、趣味仲間、馴染みの寺の住職の来訪がある他、電話や年賀状、暑中見舞い、手紙のやり取りができるように支援している。馴染みの理髪店や美容院の利用、入居者だった人の見舞いや葬儀への出席、自宅の草取り、周辺の散歩や買物で顔見知りの人に会ったり、家族の協力を得ての外出、外食、美容院の利用、法事への出席、一時帰宅など、馴染みの人や場所との関係が途切れないように支援している。	
22		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者が孤立しないよう、常に目配り気配りを行い、状況に応じて良好な関係作り、関わり合いができるように努めている。		
23		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	ご縁を大切に、必要に応じて相談支援に努めている。また、事業所の行事等にはご案内している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
24	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	センター方式の一部利用活用し、日々の何気ない会話や関わりの中から、一人ひとりの思い意向の把握に努めている。体調の変化より、受診希望された時は、家族と相談し専門医への受診を行ったりいつもの美容院でのヘアスタイルが気に入らない時など、次に行く美容室を変えたりと思い希望がかなえられるよう、支援に取り組んでいる。	センター方式を活用している他、日々の関わりの中で、利用者の行動や表情を「ケース記録」に記録して共有して、利用者を担当している職員が、ユニット会議やカンファレンス時に議題を出して検討し、一人ひとりの思いや意向の把握に努めている。把握が困難な場合は、家族から話を聞いたり職員間で話し合って、本人本位に検討している。	
25		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族、ケアマネジャー等の情報収集に努め、これまでの経過等の把握に努めている。		
26		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	1日の過ごし方、生活のリズムや心身の状態など、ケース記録に記録し、カンファレンス会議等で伝え、全職員が現状の把握に努めている。		
27	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	家族等の意見を参考にしながら、計画作成担当者、利用者の担当職員が中心となって、介護計画を作成している。3ヶ月毎にモニタリングを実施し、6ヶ月毎に見直しをしている他、要望や状態の変化があればその都度見直しを行い、現状に即した介護計画を作成したい。	月1回、ケアカンファレンスを開催し、計画作成担当者と利用者を担当している職員が中心となって、家族の意向や主治医の意見を参考にして話し合い、介護計画を作成している。3ヶ月毎にモニタリングを実施し、6ヶ月毎に介護計画の見直しをしている。利用者の状況に変化がある場合には、その都度、家族や医師、関係者の意見を聞きながら、現状に即した介護計画を作成している。	
28		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個々のケース記録に日々の細かい日常の様子を記録し、職員間で情報を共有しながら、実践や介護計画に活かしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時に生まれるニーズ、本人の状況に応じて、臨機応変・柔軟な支援、サービスに取り組んでいる。		
30		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の子供たち、ご近所の方の訪問、消防署職員指導での避難訓練、自治会行事への参加を通じ安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。		
31	(13)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	事業所の協力医療機関の他、本人や家族の希望するかかりつけ医の受診を支援している。協力医については定期的な受診、訪問診察があり、緊急時の支援もある。他科受診も含め、かかりつけ医の受診は職員同行と家族協力を得て支援している。受診結果は、家族と共有して、適切な医療が受けられるよう支援している。	協力医療機関をかかりつけ医とし、2週間に1回の訪問診療と定期受診の支援をしている。受診結果は、職員には連絡帳に記録し口頭で伝えて共有し、家族には電話やメールで知らせている。管理者は利用者の情報を毎朝、かかりつけ医に報告している。毎日、看護師によるバイタルチェック等の健康管理をしている。緊急時はかかりつけ医の指示を仰いで適切な医療を受けられるように支援している。	
32		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	職員は、利用者の小さな変化に気付ける様、日頃からの関わりを深め、気づき、不安な事を伝え、適切な受診が受けられる様努力している。		
33		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者が入院した際、医療機関に本人の支援法や情報を提供し、定期的に見舞いや電話連絡等で情報交換、相談を行い、関係作りを行っている。		
34	(14)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に「重症化した場合における対応にかかる指針」に基づいて、利用者と家族の説明している。実際に重度化した場合には、家族・職員を中心に、医師・看護師等で話し合い方針を共有している。これまで、13例の看取りの支援に取り組んでいる。	契約時に、指針に基づき事業所でできる対応について、本人や家族に説明している。実際に重度化した場合は、早い段階から本人や家族の意向に添って、主治医など関係者と話し合い、方針を決めて共有し、チームで支援に取り組んでいる。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(15)	○事故防止の取り組みや事故発生時の備え 転倒、誤薬、行方不明等を防ぐため、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組むとともに、急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身につけている。	ヒヤリ・ハット事故報告書に発生状況やその日の職員で話し合った対応策を記録し、職員会議・ユニット会議で報告書を元に検討し、一人ひとり事故防止に取り組んでいる。また、消防署職員、担当看護師による応急手当や初期対応の訓練を実施し、職員の実践力を身につけるよう努めている。	事例が発生した場合は、その場にいた職員が「ヒヤリハット報告」または「事故報告書」に発生の概要、対応の状況、再発防止に関する対応を記録して、回覧している他、職員会議やユニット会議で報告し、再発防止のための話し合いをして、事故防止に取り組んでいる。年1回、消防署の救急救命法、AED講習を受講している他、内部研修で食中毒、感染症、骨折、誤嚥の初期対応訓練等について学んでいる。全職員が実践力を身につけるまでには至っていない。	・全職員による応急手当や初期対応の定期的訓練の継続
36	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署の指導のもと(消防署立合い年3回、夜間規定1回含む)火災時、災害時を想定した避難訓練、避難経路の確認。通報訓練、消化器の使い方の訓練を地域住民、家族参加を得て実施している。他、事業所のみで毎月1回避難誘導訓練を実施している。また、家族の緊急連絡網の作成や地域との協力体制への依頼を行っている。	年3回、消防署の協力を得て、火災通報、消火、避難誘導訓練(うち1回は夜間想定)を実施している。利用者と一緒に家族や地区の自治会長の参加があり、それぞれ利用者の見守りと誘導の役目を担っている。事業所のみで年10回、家族も参加して避難誘導訓練を実施している。「事業所の自主防火体制づくり」を評価され市から表彰状を授与されている。	・地域との協力体制を築く取り組みの継続
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
37	(17)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員会議やユニット会議、申し送り時に確認して、職員は利用者一人ひとりの人格を尊重し、自尊心を傷つけずプライバシーを損ねない言葉遣いや対応をしている。不適切な対応があれば、その都度管理者が指導している。個人記録の取り扱いには留意し、守秘義務は徹底している。	職員は内部研修で接遇等を学び、利用者を人生の先輩として尊敬の念を持って接し、誇りやプライバシーを損ねない、言葉かけや対応をしている。不適切な対応には管理者が指導したり職員同士でも注意し合っている。守秘義務を徹底し個人情報の取り扱いに注意している。	
38		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	職員の勝手な判断で取り決めず、利用者様の生活歴、習慣等把握に努め、日々の関わりの中から本人の希望を探し、一人ひとりの能力に応じた自己決定できる場面作りに努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
39		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員間で協力しながら、その日の天候、体調、気分を観察し、出来る限り本人の思い、希望に応じた一日を過ごして頂けるよう、上手に思いが口に出せるように努めている。		
40		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	定期的に理容師が来設し、カット・パーマ・ヘアカラーを実施。また、行きつけの美容院へも行くことが出来る。洋服選びも様々な事を考慮して一緒に選び、誕生日にはメイクするなどおしゃれへの支援に繋げている。		
41	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	三食とも事業所で調理し、事業所の畑で取れた野菜や近所からの差し入れの野菜など、旬の物を使っている。①献立は栄養士が中心に行い、利用者の状況に応じ、刻み・トロミ・ミキサー食の対応もしている。②健康面に配慮が必要な方が増え、栄養士の献立を基本としているが、利用者の状態・要望に対し柔軟に対応し、内容を変更する事もある。利用者と一緒に買い物から調理、盛り付け、後片付けまでの作業を一人ひとりの能力に応じて行っている。誕生日には、希望のメニューを取り入れ、おやつ作りも行っている。両ユニット共に、時にはお弁当や外食支援を取り入れ、いつもと違う楽しさを持てるように支援している。	利用者の食べたいものを聞き、栄養士が献立を立て、畑で収穫した野菜や差し入れの野菜を使って三食とも事業所で食事づくりをしている。きざみ食やとろみ食、ミキサー食などの食べやすい形状にし、晩酌など利用者一人ひとりに合ったものを提供している。利用者は買物、下ごしらえ、味見、盛り付け、配膳、台拭き、後片付けなど、できることを職員と一緒にしている。利用者と職員は同じテーブルを囲んで同じものを食べ、会話をしながら楽しく食事をしている。月1～2回のおやつづくり(芋きんとん、プリン、パフェ、おはぎ、ホットケーキ、フルーツポンチなど)、季節の行事食(おせち、恵方巻、ちらしずし、そうめん、月見団子など)、誕生日の利用者が食べたい献立やケーキ、道の駅やドライブ先での食事、外注の弁当、家族の協力を得ての外食など、食事が楽しみなものになるように支援している。	
42		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	本人の状況に応じた形態で食事を提供。摂取量は日々のケース記録に記入し、小まめな水分補給を心掛け、外出時・レク後・入浴後・夜間時の水分補給を行っている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	1人ひとりの状態・能力に応じて、毎食後の口腔ケアの支援を行っている。また、歯科医受診・往診の際、専門家のアドバイス等受ける様努めている。		
44	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄チェック表による一人ひとりの排泄パターンの把握に努め、声かけ誘導にてトイレでの排泄、自立に向けた支援を行っている。	「ケース記録」に記録して排泄のパターンを把握し、言葉かけや誘導をしてトイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援をしている。	
45		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄チェック表を参考に、排便サイクルの把握に努め、食事での食物繊維や乳製品の摂取を心掛けて、毎日の体操・腹部マッサージ等で一人ひとりに応じた予防に取り組んでいる。		
46	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	入浴は毎日可能。利用者の体調に応じ、10時から19時の間に一人ひとりがゆっくり入浴が楽しめる様に支援している。希望に沿って、入浴剤や季節感を味わえるよう柚子風呂にしたり工夫している。入浴したくない方には、ゆとりをもってタイミングやスタッフが変わったり言葉掛けを工夫し、支援に繋げている。利用者の重度化のも対応できるように、リクライニング式シャワーキャリーを備えている。	入浴は毎日、10時から19時までの間可能で、ゆっくり入浴が楽しめるように支援している。体調によって個別に足浴、清拭、シャワー浴、ドライシャンプーの支援をしている。リクライニング式シャワーキャリーを使うこともあり、安全に入浴できるようにしている。柚子湯や入浴剤を使用したり、音楽をかけるなど、入浴を楽しめるように支援している。入浴したくない人には、無理強いせず、職員を替えたり、時間をずらしたり言葉かけの工夫をして個々に応じた入浴支援をしている。	
47		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの状況、生活習慣に応じ、就寝・起床時間を支援している。また、体調等配慮し、いつでもゆっくりと自室で休めるよう支援している。		
48		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	全職員が利用者の服薬管理一覧表を基に、目的・副作用の理解に努め、服薬セットを行いチェックと、段階において確認の強化と誤嚥防止・飲み忘れが無いように支援している。また、薬の変更時には、経過観察を徹底している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(21)	○活躍できる場面づくり、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの生活歴や力を活かし、テレビ視聴、新聞や雑誌を読む、切り絵・ぬり絵・計算ドリル・パズル・裁縫・生け花・体操・ボランティア来設・季節行事・外出・買い物・調理・おやつ作り・家事・畑仕事・草取り等・利用者に合った楽しみ事や活躍できる場面・気分転換の支援をしている。	畑の水やりや草取り、野菜の収穫、食材の買い物、調理、盛り付け、配膳、台拭き、後片付け、洗濯物干し、洗濯物たたみ、掃除、モップかけ、折り紙、トランプ、ぬり絵、テレビ視聴、新聞や雑誌を読む、晩酌、誕生日会、おやつづくり、季節の行事(カルタとり、豆まき、ひな祭り、七夕、ハロウィン、クリスマス会など)、家族とのふれあい(面会、行事、家族会)、ボランティア(ちびっこ、傾聴、よさこい)との交流、園児や小中学生高校生とのふれあい、オレンジカフェなど、活躍できる場面づくりをして、楽しみごとや気分転換の支援をしている。	
50	(22)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩や買い物、季節の花見(桜・梅・チューリップ・コスモス等)、ドライブ(角島・東行庵・川棚)、美容院、地域の祭り、初詣、外食などの他、家族の協力を得ての外出・外泊・墓参り、大切な家族のお見舞い、最後のお別れ、法要、自宅で家族と一緒に過ごす時間を作ったりと、一人ひとりの希望に添って外出できるよう支援している。	初詣、季節の花見(梅、桜、チューリップ、コスモス、紅葉)、地域行事(敬老会、ほたる祭り、夏祭り、文化産業祭、花火見物)、保育園の運動会、ドライブ(角島、道の駅)、スーパーマーケットでの買物、理髪店や美容院の利用、自宅の草取り、近所の散歩や外気浴、家族の協力を得ての外出、一時帰宅、葬儀への出席など、利用者の希望に添って戸外に出かけられるように支援している。	
51		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	職員と一緒にスーパーや道の駅に買い物へ行き支払をして頂いたり、本人が欲しい物、必要な物がある時には買い物へでかける支援に繋げている。		
52		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	年賀状、暑中見舞いや日常においても手紙・ハガキを書き、家族へ送ったり電話の支援を行っている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
53	(23)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関、ホール、食卓に花を生け、日頃より季節感が伝わるように努め、台所からは食事を準備する音や匂いが五感を刺激し、生活感を感じることができる。また、ソファ・椅子を多く配置し、一人ひとりが思い思いの場所でゆったりとくつろげるよう居心地でゆったりとくつろげるよう居場所づくりの提供を行っている。空調に配慮し、居心地よく過ごせるように工夫している。	玄関やリビングに季節の花やハロウィンのカボチャを飾り、窓から近くの野山が一望でき、季節を感じることができる。天窓や中庭からの採光でリビングは明るく、広々としている。一角に畳の間を設けたり、廊下やリビングにソファを置き、利用者がいつでも思い思いにくつろぐことができる居場所づくりをしている。台所から調理の音や匂いがして生活感がある。壁のボードには利用者の作品や行事の写真を掲示している。温度、湿度、換気に配慮し、居心地よく過ごせるように工夫している。	
54		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファ・椅子、屋外にはベンチを配慮し、その時の思いに合う居場所の工夫をしている。		
55	(24)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かし、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人・家族と相談しながら、テレビ・タンス・テーブル・椅子・小物や化粧品等、使い慣れた物や大切な物を持ち込み、自宅と同じように配慮し、家族の写真を飾って利用者らしい部屋を作り、居心地よく過ごせるよう工夫している。	タンス、机、椅子、カラーボックス、テレビ、衣装ケース、位牌、時計、若い時の写真など利用者の使い慣れたものや好みのものを持ち込み、生花やカレンダー、誕生日の色紙を飾って、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	
56		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室・トイレ・玄関の扉は引き戸で手すり設置の充実や共用部分のトイレ・浴室には表示を施行している。		

2. 目 標 達 成 計 画

事業所名 グループホーム豊田

作成日：平成 30 年 4 月 1 日

【目標達成計画】					
優先 順位	項目 番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に 要する期間
1	15	○事故防止の取り組みや事故発生時の備え 職員の入れ替わりもあり、全職員が緊急時における対応の実践力を身に付けるレベルに至っていない。	全職員による応急手当や初期対応の実践力の向上	定期的な応急手当、緊急時の対応の訓練の実施。専門職による研修時間の確保。	12ヶ月
2	16	○災害対策 地域、家族との協力体制の強化	災害時における、地域との協力体制の構築。地域住民、家族参加による定期的な訓練の実施。	災害対策マニュアルの確認（全職員） 地域住民の協力者の確保。 災害想定訓練の実施。	12ヶ月
3					
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。